



株式会社バンダイナムコホールディングス

Project name

楽しみながら、楽しい未来へ。 The BANDAI NAMCO Lifestyle Project

実施期間 平成 23 年 4 月 1 日～
平成 25 年 3 月 31 日

所在地 東京都品川区東品川 4-5-15
事業内容 バンダイナムコグループの中長期経営戦略の立案・遂行、
グループ会社の事業戦略実行支援・事業活動の管理
U R L <http://www.bandainamco.co.jp/>



広告



人事部 セネラルマネージャー 林 徳文 氏
人事部 東京モデル事業推進担当 平田 順子 氏

バンダイナムコグループは「少子化打破」という東京モデル事業の目的に共感して参画。子どもを持つファミリー層が主なターゲットであるエンターテインメント業界として重要課題でもあった。担当の人事部セネラルマネージャー林徳文氏は「私たちが先頭になって取り組むべきだと考えた」と語った。

キッズルーム 「また利用したい」90%



キッズルーム

東京モデルだから実現できたという代表的な取組がキッズルームだ。夏休み等長期休みに、社内で社員の子どもを一時預かりするもので、両立支援策のひとつ。これまでは社内における占有スペースの通年確保がネックだった。「従来は福利厚生と捉える人が多く『業務スペースが優先』などの声があがりがちだった。しかし働き方改革の一環として実施したところ利用者以外からも『会社へのロイヤリティがあがった』と高評価で、今後もぜひ続けたい」（林氏）

今年の夏休みは小学生を対象に（最大8人まで）全10日間実施。8時半から18時半まで学習サポートや英会話、公園遊び等を行った。参加者には事前に問診票を提出してもらいアレルギー等を確認、緊急時の体制も整備した。「震災以降は子どもと離れているのが不安だったが、キッズルーム利用中はそばにいる安心感があった」などの声が届き、利用者アンケートでは90%が「また利用したい」と答えている。

この会議はいくら？ 「ダンドリさん」

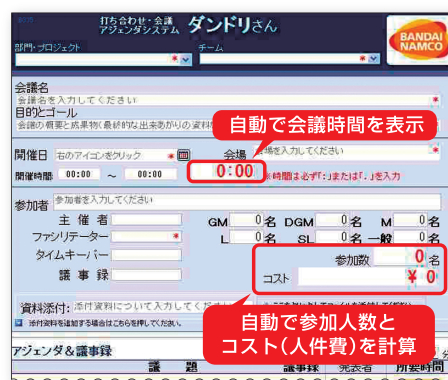
「ダンドリさん」は会議を効率化するため独自開発したシステムだ。画期的な点は、全参加者の時間給に基づく人件費の算出。例えば、この会議は1時間〇万円といった具合で“一応出席者”を減らすのに効果的だと言う。

楽しみながら意識啓発

意識啓発活動で同グループは常に新しい切り口で意識向上に努めてきた。例えば今年のワークライフバランス（WLB）セミナーは講演会に加え、時短料理に挑戦する料理教室も開催。

また、ノー残業デーに発信するメルマガでは花火大会等季節イベントを紹介している。担当の平田順子氏（人事部）は『『早く帰ろう』ではお仕着せと感じる社員もいる。若い世代にもピンとくるツボや言葉が大切で、時には『街コン』*情報も発信しています』と語る。

*街コン：街ぐるみで行われる大型のお見合いイベント



アジェンダシステム「ダンドリさん」

WLB推進のコツは「トップの理解を得て巻き込むこと。しかしトップの威光だけで進めないこと」と林氏。社員自らが働き方を考え、変えることが重要だからだ。今後様々な取組について、ヒアリング調査や残業時間との相関関係等を分析しつつ発展させたい考えだ。

主な効果

独自システム「ダンドリさん」
などによる会議の効率化

「ダンドリさん」は運用3か月で半数の部門が使用し参加者数の適正化を促進。ファシリテーション研修等も実施し、「会議が時間通りに終わるようになった」との声多数。

社内制度の認知度UPと利用促進

メルマガやポータルサイトによる情報

発信で社内制度の利用が促進。

【男性社員育児休業取得者】

H23（2人）⇒H24上半期（6人）

ネットワークの活用で業務効率化

携帯電話やスマートフォンでメール・スケジュールを管理するシステムを導入。運用3か月で50%が利用し、自席以外で仕事をする割合が多い社員ほど利用率が高く、帰社回数が減った等「業務が効率化した」と67%が回答。

女性の育児休業後の復帰率が向上

90%以上復帰

両立支援策の
キッズルーム

また
利用したい
90%

その他
※家が遠方
のため等
10%